

3.1999年大会のテーマセッション案内

テーマ:「日本農村の20世紀システム～現代社会経済理論による農村研究の再発見～」

コーディネーター 池上 甲一

日本の農村・農業は、21世紀に存続できるのかどうかさえ危ぶまれるほどの状況にある。そのような現実に対して、21世紀へのパースペクティブを開くためには、まず何よりも危機的状況に立ち至った経過をきちんと総括し、その構図とメカニズムを明らかにしなければならない。その際に、特殊な「生産力主義」が経済システムの違いや思想にかかわらずなく、20世紀世界を覆いつくしていたことに注意する必要があるように思う。そうした総体を「20世紀システム」として把握し、それが日本農村においてどのように貫徹し、どのような意味を持ったのかを具体的に把握したい。20世紀システムは外から農村を規定したが、それはまた同時に農民自身が選び取ってきたものでもあるという二重性を持つ。ここに基本的な視点を定めたい。この作業は、すでに確固たる分析枠組みを持つ古典的理論ではなく、いくつかの挑戦的な現代社会経済理論に依拠することによって、見通しを得ることができるのではないか。さらにできれば、以上の分析と考察を通じて、農村研究の新しい可能性にまで踏み込んで議論したい。

具体的には、農業ーフード・チェーンの変容（立川雅司会員）、安城市を素材とする近代化過程の意味と「共」の分解（岩崎正弥氏・現在非会員）、山村の20世紀システムー過疎とその後ー（秋津元輝会員）、農家生活の変容にみる20世紀システム（川手督也会員）に報告をお願いする予定である。